

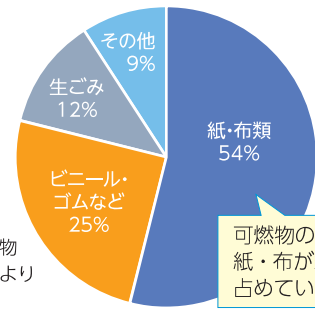
雑がみの出し方が簡単になりました

雑がみは、これまでは雑誌にはさんでから紙ひもでしばって出していた提供していましたが、平成29年2月から、紙袋や紙箱に入れて出すことができるようになりました。

雑がみは、分別することで立派な資源になり、さらに可燃物の量を減らすこともできます。

一人ひとりの心がけが廃棄物の減量につながりますので、ご協力ををお願いします。

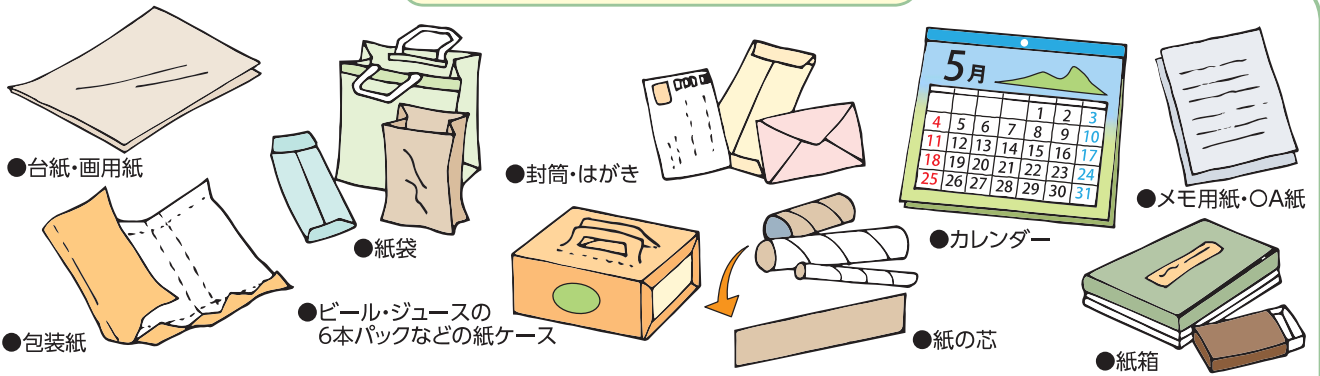
可燃物の内訳（乾燥重量比）



※H28年度可燃物組成調査結果より

可燃物のうち紙・布が約半分を占めています！

雑がみ（リサイクルできる紙）の例



※感熱紙、カーボン紙、ビニールコート紙、写真などの資源ごみに出せない種類の紙は、燃やすごみに出してください。詳しくは「ごみの分け方・出し方テキスト」で確認してください。

雑がみの出し方

紙袋の場合



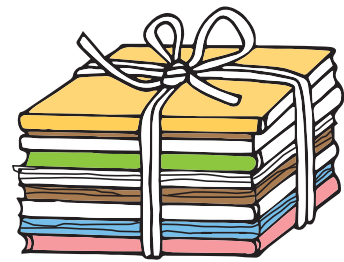
- 中身が散乱しないよう、ホッチキスや紙テープなどで口をとめてから出してください。
- 紙袋の取っ手が紙以外の素材の場合、取っ手は外してください。

紙箱の場合



- 中身が散乱しないよう、ふたをして紙テープなどでとめてから出してください。
- ダンボール製の箱は使用しないでください。

雑誌にはさみ込む場合



- 雑誌にはさみ、紙ひもでしばって出してください。
- 封筒などに入れてから、はさみこむこともできます。



- ごみ箱の横に紙袋を置き、雑がみを捨てる時はごみ箱ではなく紙袋に入れていくと便利です。
- たまったら口を閉じて資源物として出すだけです。

Q&A

Q：ホッチキスやセロハンテープ、ビニールが付いている場合はどうすればよいですか？

A：ホッチキスはそのままでかまいませんが、セロハンテープやビニールは取り除いてください。（ホッチキスは処理工程において取り除かれます。）

Q：においや油汚れのついた箱は雑がみとして出せますか？

A：洗剤や線香、石けんの箱などにおいのついた紙や、多少でも汚れた紙は、燃やすごみに出してください。（再生品の品質が落ちてしまうため。）